
とうめいにんげん

立木十八

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とうめいにんげん

【Nコード】

N4339T

【作者名】

立木十八

【あらすじ】

ぼくはとうめいにんげんだ。

そうになったのにはわけがある……。

現代童話風ショートショート。

ぼくはどうめいにんげんだ。
うそじゃない。

ならしうこをみせろって？

ざんねんだけど、しうこはみせられない。
なにせ、どうめいだからね。

みえないっていうのが、なによりのしうこだ。
わかってもらえたかしら。

でも、うまれたときからどうめいだったんじゃない。
ちよっとしたわけがあって、こうなった。

そのわけというのが、このけしゴム。

みたところ、ただのちびたけしゴムだけど、そうじゃない。
なんとこれは、けしたものをどうめいにしちゃうけしゴム。

うそだとおもう？

ならしうこをみせる。

きみのみのまわりにあるものを、ひとつどうめいにしてやろう。
ごしごし、と。

ほらね。

といっても、どうめいにしちゃったからみえないか。

だいじなものじゃなければいいけど、もしひとつようになったら、
よくさがしてみて。

どうめいになったからって、なくなったわけじゃない。

みえないけれど、どこかにあるよ。

さて、このけしゴムは、いつのまにか、ぼくのふでばこにはいつ
ていてね。

あるひ、ぼくは、つくえにらくがきをしておこられた。

きれいにけしなさい、っていわれたから、このけしゴムをつかってけしていたんだ。

ところが、ごしごしこすったら、らくがきだけじゃなくて、つくえまできえた。

そのせいでよぶんにおこられた。

びっくりして、なにがなんだかわからなかった。

だけど、つくえはみえないだけで、ほんとうはきえてなかった。さわればそこにあったし、ものもおけた。

そのあとも、けしゴムをつかうたびに、どんどんものがきえていった。

ごしごししたら、どんどんきえた。

ノートも、きょうかしよも、とうめいになったら、もうつかえない。

とうめいなエンピツは、なんにもかけない。

そうして、やっとぼくはきづいた。

これは、もののすがたをけして、とうめいにしちゃうけしゴムなんだって。

ところで、いまじゃもうみえないけど、ぼくのかおのはなのしたには、でっかいほくろがある。

このほくろのせいで、つけられるあだなは、いつも、はなくそ。

ぼくはそのあだながすごくいやだね。

どうにかして、ほくろをけせないかなって、ずっとおもってた。

そこで、ぼくはけしゴムをつかって、ほくろだけをけそうとしたんだ。

かがみをみながら、ゆっくりと、すこしづつ、ほくろだけを、こすって、けしていった。

でも、はなのしただったから、うっかりけしゴムのかすを、すいこんじゃった。

はなが、むずむずして、がまんできずに、くしゃみをした。
てもとがくるった。

あわてて、かがみをみたら、はながまるきりきえてた。
わかる？　かがみにうつったぼくのかおは、はなのところだけが
きえていて、うしろのかべがみえてるんだ。

どうしようっておもったね。

はながないなんて。

これじゃ、みんなに、どんな、あだなをつけられるかわからない。
はながあるだけ、はなくそのほうがまだましだった。

どうにかもとにもどせないかと、いろいろためしてみた。

おかあさんのけしょうどうぐを、ちょっとかりて、はなにぬって
みた。

そしたらはなは、そこにでてきた。

でも、いろがへんだ。

それに、けしょうひんのおいで、はながむずむずする。

また、くしゃみがでた。

ほかに、えのぐ、クレヨン、いろエンピツ、たくさんためして
みたけれど、どれも、いろがへん。

みんな、はだいろのはずなのに、ぼくのはだいろとは、ちょっと
ちがった。

それに、こんなのおふろにはいったら、すぐにおちちゃう。

プールにでもはいたら、みんなにはすぐにばれちゃう。

かおもあらえないなんて、きたないし、いやだ。

ぼくは、かがみのまえてなやんだ。

うんうんうなっているうちに、ひらめいた。

はなだけきえてるからおかしいんだ。

ぜんたいきえてればおかしくない。

ぼくはごしごしからだをこすった。

おふろでからだをあらうみたいだね。

おなかからはじめて、むね、かお、あし、さいごに、てだ。

からだについた、けしゴムのかすを、さつとはらって。
そうして、ぼくは、すっかりとうめいにんげんになった。

ここでもんだい。

このけしゴムを、とうめいにするにはどうしたらいいでしょうか？
こたえはかんたん。

けしゴムをふたつにきって、めいめいけせばいい。

もひとつもんだい。

ふたつにきらないで、このけしゴムをけすにはどうしたらいいで
しょうか？

これはもつとかんたんだ。

だって、けしゴムなんだもん。

つかいきつちやえばいい。

もんだいおわり。

さて、とうめいになったぼくは、だれにもみえない。
いたずらしほうだいだ。

うちでかってる、いぬのジョンをとうめいにした。

みえないジョンにほえられて、みんなびっくりしてた。

いりぐちのドアをとうめいにした。

みんな、きづかずに、かおをぶつけた。

どうろにとめてある、じゃまなくなるまをとうめいにした。

もちぬしが、きよろきよろさがしまわってた。

あ、おとうさんのかみのけをけしたのは、ぼくじゃない。

あれは、もとから、ない。

でも、いろいろやって、やりすぎた。

さすがに、みんなにきづかれた。

それはそうだ。

ぼくがけしゴムをつかってけしたものは、ほんとうはそこにある。

ただ、とうめいになったただけなんだから。

そのうち、だれのいたずらなのか、みんながさがしはじめた。
ばれたら、まずい。

ぼくは、どこかにかくれようとおもった。
でも、どこに。

かくれんぼはにがてだ。

どこにかくれても、すぐみつかっちゃう。

どこか、だれもないところがいい。

どこか、だれもこないところ。

そんなところ、あるだろうか。

あった。

それは、よぞらにばかりとうかんでいた。

おつきさまだ。

どうやらこんど、つきにロケットをとばすらしい。

それにこっそりのせてもらって、つきまでいけば、もうみつから
ない。

いいかんがえだとおもわない？

ぼくは、これから、そうするつもり。

もうみんなとはあえなくなるけど、どうせみんなはぼくのことを
みえないんだし。

さみしくはないだろう。

ぼく？

ぼくは、まあ、すこしはさみしい。

もう、だれともあえないんだからね。

でも、だいじょうぶ。

いぬのジョンもつれていくしね。

つきにいったら、しょうこをみせろって？

そういわれても、てがみはだせない。

でんわだって、きつとつうじない。

そうだ、ひらめいた。

もう、このけしゴムは、すっかりちびちび。

だから、ぜんぶはむりだけどね。

すこしだけ、つきをけしてみようか。

きみ、たまにきがむいたら、よぞらを見あげてごらん。

まあいい、おつきさまが、かけているかもしれないよ。

(後書き)

以前に書いた作品。

全編ひらがなのので読みづらかったかと思います。

ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4339t/>

とうめいにんげん

2011年5月21日12時25分発行